

土木学会 コンクリート委員会
平成 28 年度 第 1 回規準関連小委員会議事録（案）

1. 日時：平成 28 年 8 月 26 日（金） 13:00～15:00
2. 場所：スクワール麹町 4 階羽衣
3. 出席（敬称略）：久田委員長、横関幹事長、上野、氏家、小川、片平、川西、坂本、田中、日比野、正村、皆川、山口、渡辺
4. 配布資料
 - 3-0 議事次第
 - 3-1 第 2 回規準関連小委員会議事録（案）
 - 3-2 土木学会コンクリート委員会 委員会活動報告（2015 年 9 月～2016 年 8 月）
 - 3-3 土木学会 HP への問合せ対応報告
 - 3-4 JSCE-F 701 ボックス型容器を用いた加振時のコンクリートの間隙通過性試験方法の経過報告
 - 3-5 土木学会規準（コンクリート委員会制定）の制定／改正に関する規定（案）
5. 議事
 - (1) 委員長挨拶（久田委員長）

開催に先立って、久田委員長から挨拶がなされた。
 - (2) 議事録確認（資料 3-1）

山口主査より、前回議事録（案）の説明が行われ、以下の修正が指摘された。

 - (3) 「可振ボックス試験」⇒「加振ボックス試験」に修正する。
 - (5) 「国内基規準との対応」⇒「国内規準と海外規準の整合性」に修正する。
 - (3) コンクリート委員会への活動報告内容の報告（資料 3-2）

横関幹事長より、9 月の土木学会年次大会時に開催されたコンクリート委員会で報告した規準関連小委員会の活動内容に関して説明があった。以下の修正が指摘された。

 - ・「可振時」⇒「加振時」に修正
 - (4) 土木学会 HP への問合せ対応報告（資料 3-3）

横関幹事長より、土木学会の HP にあった問合せに対しての回答報告があった。

<ブリーディング率試験方法（JSCE-F 522）>

土木学会で販売しているポリエチレン袋の底が破れるというクレームが増加しており、材質を従来品よりも強度のある「LLDPE」に変更したいとの依頼があった。寸法、厚さとも変更なしとのことで了解したと回答した。しかし、本委員会の直前に土木学会の方から端部の加工箇所を従来の 2 箇所から 1 箇所に変更したいと新たに打診があった。フレッシュコンクリート WG を中心に、形状の変更について問題ないか確認する。

<モルタルの作り方について（JSCE-F 505）>

規準では JIS R 5201 に規定している練混ぜ機を用いることになっているが、大量に試験体を作製する場合はコンクリートミキサーを使用して良いのかとの問合せに対して、利用者の技術的判断に基づき適切に行う旨回答した。材料や配合が異なると変わること、「原則」と書いてあることからこの回答で良いのではとの意見があった。

けい酸塩系表面含浸材の試験方法 (JSCE-K 572) の中にも JSCE-F 505 の試験規格が引用されている。大量のモルタルを練り混ぜること頻度が高いのであれば、ミキサの性能を確認した上で使用するなど、記述を配慮する必要があるのではないか。補修材料 WG でこの規準のあり方について議論する。

(5) 各 WG 活動報告

上野主査 (ホームページ WG) より、委員構成および WG 構成を見直したとの報告があった。各委員の所属先について、現在希望者のみリンクを張っている。リンクを張りたい場合は連絡してほしい。

山口主査 (鋼材, 補強材 WG) より、亜鉛めっきに関する規格について II 種委員会で検討しており、来年以降提案される可能性があるとの報告があった。

日比野主査 (フレッシュコンクリート WG) より、間隙通過性試験方法の経過報告があった。内容は(6)で詳述する。

皆川幹事 (補修材料 WG) より、9/15 に WG を開催する旨報告があった。

横関幹事長より、将来構想 WG の活動内容に関して報告があった。内容は(7)で詳述する。

(6) 間隙通過性試験方法の経過報告 (資料 3-4)

日比野主査より、ボックス型容器を用いた加振時のコンクリートの間隙通過試験方法 (JSCE-F 701) に関して経過報告があった。土木学会論文集に向けて、徳島大学の橋本教授を中心に原稿を執筆予定。

<審議の経緯>

- ・2015年12月25日 第2回規準関連小委員会 2回目の審議
- ・2016年1月18日 第5回常任委員会 1回目の審議
- ・2016年3月17日 第6回常任委員会 ⇒最終案が承認された。
- ・2016年6月15日 コンクリートライブラリ 145号で公開

<主な審議内容>

- ・スランプの範囲は規定しない。計測できない項目がある場合には、「計測不能」と記録する。
- ・締固めエネルギーについて⇒振幅だけが極端に異なるバイブレータは見当たらないため、形式、直径 28mm および振動数 200Hz 程度を規定するのみで留める。

(7) 土木学会規準の制定および改正に関する規定について (資料 3-5)

横関幹事長より、上田主査が作成された土木学会規準の制定および改正に関する規定 (案) の説明があり、以下の意見があった。上田主査に再考していただく。今後も議論を重ねる必要があるため、当面は委員会の内部資料とする。

- ・規準の制定に関しては、常任委員会の承認が必要。解説に関しては、規準関連小委員会での承認で十分ではないか。
- ・新しく規準が制定された場合には、土木学会論文集で公表することを原則としたい。
- ・(8) の「やコンクリートライブラリー, コンクリート技術シリーズなどの出版物で」は削除するか、「対外的に公表してもよい。」程度の記述に修正してはどうか。
- ・JSCE 規準 (案)、(修正案)、(最終案) では分かりにくいので、(Ver.1)、(Ver.2) などの数字で履歴が分かるようにするか、(常任委員会承認案) など審議の段階が分かるようにしてはどうか。
- ・(7) の後に、パブリックコメントの照会に関する項目を追加したい。また、「改定案の策定」の項目を追加したい。
- ・(9) の改定案の作成の後に改定手順の記載がないので、追加したい。

- ・1年に1回、2年に1回など、土木学会規準の見直しに関する運用方法を決めておきたい。
- ・タイトルに記載されている「改正」は「改定」ではないか。
- ・4. JSCE 規準の廃止について、高流動コンクリートのL型フロー試験のように、土木分野ではほとんど使用しないが、建築分野では使用しているケースがある。廃止に関して記述を再考したい。

(8) 将来構想WGのあり方について

横関幹事長より、将来構想WGとしての活動について説明があり、以下の意見があった。

- ・どういう観点で議論を行えば良いかを議論したい。
- ・活動内容について委員会メンバーで意見を出してほしい。

(9) 電子化について

久田委員長より、電子化についての説明があり、以下の意見があった。

- ・以前、メールを送付したが、蔵重委員の作成された現状の案が便利で見やすいので参考にしてほしい。規準編同士の連携や規準編以外の示方書との連携が取れるようにしたい。
- ・完全にテキスト化した場合、容量が軽くて良いが、数式等をどう処理するかが課題である。
- ・著作権の問題は、まだ解決していない。
- ・リンクは業者が張ってくれるので、まずはWord版データのメンテナンスを実施したい。
- ・規準編以外の示方書に、規準の番号をきちんと記載してもらおうよう、申し入れたい。

(10) 今後の作業内容について

久田委員長より、電子化についての現状を踏まえて、各WGで各規準の引用規格等の改定箇所のチェックを進めてほしい旨、依頼があった。次回委員会では、チェックの結果を報告する。

(11) その他

次回委員会は、12月9日（金）14:00～の予定

以上 文責：川西